

都技 生涯 研修 基本講習会 II

[重要なお知らせ]

1. コロナウイルス感染拡大防止目的によりZOOM（ズーム）システムを用いたオンラインによるセミナー開催となります（*オンライン環境がない方は会場参加可）。

2. **本研修会は東京都保健局よりの委託事業となっております。**

つきましては受講対象者は以下の方に限ります。

- ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
- ② 東京都内在住在勤歯科技工士
- ③ 学生並びに都技メイト会員（技工学校卒業後2年度内の方）

[申込期間]

- 東京都歯科技工士会会員（上記①番）：10月9日(金) AM9時～
- 都内在住在勤歯科技工士、学生並びに都技メイト会員（卒業後2年度内の方）（上記②③番）：10月16日(金) AM9時～

*受付開始日前のお申し込みは無効とさせていただきます。

*定員になり次第締切させていただきます。

[申込方法]

- ① 右記QRコードを読み取り、お申し込みください。
*QRコードが読み取れない方は下記アドレスまでご一報ください。
メールアドレス：sya-togi@muf.biglobe.ne.jp
- ② 上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。



申込用QR

[LINE公式アカウント登録のお願い]

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技では試験的にLINE公式アカウントを設けましたのでLINEを使用されている方は、是非とも登録をお願い致します。



都技LINE公式
アカウントQR

[お問い合わせ]

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

e-mail : sya-togi@muf.biglobe.ne.jp

令和2年度

基本講習会 II

オンラインセミナー

近代口腔インプラント治療の 黎明期に学ぶ

～オッセオインテグレートド インプラントのコンセプトと技工連携～

荒瀧 友彦 先生 (デンタルクリニック マ・メゾン 院長)

長期的予後を見据えた インプラント補綴装置の製作を目指して

三輪 武人 先生 (㈱協和デンタル・ラボラトリー)



Tokyo master course Science Lecture

[開催日時]

令和2年 11月1日 日

受付 12:30 開始 13:00 → 終了 17:00

オンラインセミナー

定員 60名

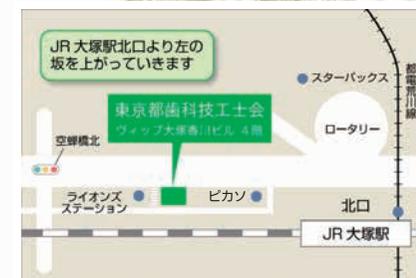
参加費 無料

会場受講

定員 15名

参加費 無料

場所 東京都歯科技工士会 研修室
東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F



一般社団法人 東京都歯科技工士会

都技
生涯
研修

現在主流の純チタンによる骨結合型デンタルインプラントシステム（オッセオインテグレーション インプラントシステム）が、ブローネマルクらによって臨床応用されたのは1968年、実に50年以上も前のことである。本邦においては、1983年に小宮山らが東京歯科大学病院において臨床応用を開始したが、それもすでに40年近くの年月が経過し、現在ではその有用性と長期安定性が科学的にも臨床的にも十分に確認され、日常臨床においても普遍的に使用されるようになった。開発当初は無歯顎が中心であった適用症例も、現在ではあらゆる欠損症例に応用されるようになっていく。さらに、インプラント体の表面性状や形態、補綴関連コンポーネントなどが少しずつ改善、拡充され、早期荷重や即時荷重のプロトコルの確立とデジタルナビゲーションシステムの普及と相まって治療期間の短縮など患者の負担軽減が得られるようになった。また、審美面においても開発当初とは比較にならないほど軟組織と調和した天然歯と見間違えるような術後成績が得られるようになっていく。

インプラント体の表面性状や形態の改善、さらにデジタルCTの普及による診断技術の向上によって早期により確実なオッセオインテグレーションが得られるようになった現在、確かにインプラント手術の成功率は、機械加工の表面性状が主流であった1980年代までのデンタルインプラントシステムと比較すると格段に向上したといえる。しかし、経年的な生存率に関しては残念ながら現在に至っても向上したとは決していえない。生存率が上がらない理

由は、手術の臨床的成功率が上がったことで従来では困難と考えられていた症例にまで適用が拡大され、欠損歯列の診断や補綴設計への生体力学的な配慮が十分に行われないまま強固なオッセオインテグレーションが得られるインプラント体の表面性状だけに頼ったメーカー主導型のインプラント治療が増え続けているからだと考える。術者の経験を問わずインプラント体と骨との結合が得られやすい時代になったとはいえるが、長期的な生存率は術者の知識と経験技術に大きく左右されるということは未だ変わらないのである。

オッセオインテグレーションという表現を最近あまり目にしなくなり危機感を持っている。インプラントを過信して慎重さを忘れていないか、メーカー主導の宣伝に惑わされ基本的な概念を忘れていないか、口腔組織の経年変化を無視していないか、自己流で自己満足に陥っていないか。口腔インプラント治療が一般開業医でも普遍的に行われるようになった現在、過去の失敗を繰り返している例をよく目にするようになった。50年前と何ら変わらないオッセオインテグレーションの概念を鑑みて、口腔インプラント治療の黎明期に先人たちが工夫してきた臨床的な手技や技工技術の英知を今こそ学び見直すべき時期だと思う。

今回の講演では、私が関わった約30年の口腔インプラント治療の変遷を、新旧症例を通して振り返り、オッセオインテグレーションの概念（ブローネマルク コンセプト）を再確認しながら、口腔インプラントの補綴技工、特に連携の勘所について述べてみたいと思う。

長期的予後を見据えた インプラント補綴装置の製作を目指して

補綴装置を製作する際、皆さんはどのような点に重点を置いて製作を進めていらっしゃるだろうか？ 患者様の口腔内で補綴装置が長期的に機能し続けるためには、現状に至るまでの背景、関連知識、技工技術などについて総合的に考え、補綴装置に反映させていく力が必要である。特に、歯周組織やカリエスリスク、ペリオリスク、力に対する考え方を習得しておくことが重要であり、その上で、適正な補綴設計や材質を提案できることが望ましいと考えている。インプラント補綴においては、アバットメント製作をはじめ、各種インプラントシステムについての知識や情報が必要となるため、歯科技工士の考えるべき事柄の幅も非常に広がる。

近年、デジタル技工が注目されるよう

になり、数多くの関連情報を見聞きする。弊社でもCAD/CAMシステムや3Dプリンター、口腔内スキャナーからの症例など、デジタルを活用した技工の割合が増えつつある。しかし、手法が変化しようとも基礎となる考え方はこれまで培ってきたものと同様である。デジタル時代になったからといって簡単に良質な補綴装置が作製できるようになるわけではなく、これまでに確立されてきたエビデンスをもとに、じっくりと考慮された補綴装置の設計、製作が行われる必要がある。そこで今回は、インプラント技工、デジタル技工にフォーカスし、弊社で考える補綴設計、マテリアル選択、デジタルの現状と今後について包括的にお話しさせていただきたいと思う。

■講師略歴

三輪 武人

[みわたけと]



(有)協和デンタル・ラボラトリー

1998年 埼玉歯科技工士専門学校卒業
1998年 (有)協和デンタルラボラトリー入社
2008年 日本口腔インプラント学会認定技工士取得
2011年 埼玉歯科技工士専門学校専攻科非常勤講師

学会活動等

- 日本口腔インプラント学会（専門技工士）
- 日本歯科審美学会会員
- 日本臨床歯科医学会会員
- 日本歯科技工士学会会員

■講師略歴

荒瀧 友彦

[あらたきともひこ]



1993年 東京歯科大学卒業
1997年 東京歯科大学大学院歯学研究科（歯科補綴学専攻）修了
1997年 博士（歯学）の学位受領
1997年 東京歯科大学歯科補綴学第三講座助手
2004年 東京歯科大学歯科補綴学第三講座講師
2005年 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科講師
2005年 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科医局長
2007年 東京歯科大学口腔インプラント学研究室講師
2007年 東京歯科大学退職
2010年 デンタルクリニック マ・メゾン開設
現在に至る。